

タウンミーティング あったかいまち「ふじみ野」を目指して  
日時 平成26年10月19日（日） 10時30分～正午  
会場 武蔵野集会所（福岡武蔵野1丁目）  
天気 晴れ

参加者 47人



主な意見等

参加者 この武蔵野町会の避難場所は西公民館になっています。西公民館は武蔵野と上福岡4丁目、上福岡5・6丁目の3町会で利用することになっていますが、人が多すぎて公民館では立ったままの状態になってしまいます。西公民館に自家発電装置は設置されていますか。もしも設置されていないとしたら大変なことになると思います。とにかく人が多いので、避難所の見直しをしていただきたい。

さらに、東上線が止まってしまったら鉄道利用者も西公民館に避難してきます。市でそういう点も考えてほしい。

市長 避難所に関する説明が言葉不足で申し訳ありませんでしたが、訓練の際は避難所への経路ということで、避難所を利用してもらっています。しかし、実際に災害が発生したときに避難所へ逃げてください、ということではありません。TVなどで映し出される体育館など避難所の映像で、被災地の住民がすべて入れているのだろうかという疑問に感じると思います。当然ですが、すべての住民は入っているわけではありません。災害協定を締結している事業者もたくさんあるので、そういう店舗などを利用してもらっても構いませんが、イザという時はまず揺れから体を守って、その後、空き地でも駐車場、よその家の庭でもいいから空いている場所に移動して身の安全を確保してください。地震の揺れ方にもよりますが、すべての家が倒壊してしまうという危険性は低いと思います。

繰り返しになりますが、地震が起きたから西公民館へ必ず避難してくださいということではありません。避難所を知っておいていただきたいということで西公民館を示しています。

ご意見にあった自家発電装置などの課題や状況に応じた対応方法などにつきましては、順次解決に向けて取り組んでいきます。

参加者 富士見通りには東上線の踏切がありますが、混雑がすごい状況です。以前あった東西連絡道路の計画は中止になりましたが、周辺の開発が進み、山田整形外科医院の前も大型車も含め車が多く通るようになりました。あの道はセンターラインがなく、互いに譲り合って通らないといけないので、危ないと思います。

また、この周辺では線路を迂回する道が少ないので、歩行者や自転車もあの踏切を通りますが、事故が増えてきました。

改善についての考えはありますか。

市長 多くの方が「開かずの踏切」と呼ばれるこの踏切について、意見や考えがあるといます。確かに合併以前に東西連絡道路という地下道を造る計画がありました。国の事業認可も受けて、土地の先行買収も進んでいました。総事業費65億円の計画でしたが、私が市長に就任した時点では、国から時間切れといわれてしまいました。

現在、踏切の幅が広がって、歩行者の通路ができ上がりましたが、副都心線の乗り入れなどで通行する電車の本数が増え、高齢者が渡り終えないうちに遮断機が閉まってしまうという課題もでてきました。

車が通行できる地下道や陸橋は、造れる状況ではありません。せめて、歩行者や自転車だけでもなんとかできればいいのですが。

市の単独実施は難しいと思いますが、最近では国も規制緩和を進めてきていますので、国にもお願いをしながら策を考えていきたいと思っています。

残念ですが、今のところは具体的なことはお示しできないというのが現状です。

参加者 市では町会への加入促進を進めていますが、町会への加入率は下がっています。また、高齢という理由で脱退している人も多くなっています。理由としては、役員になることや年金暮らしで社協への寄付のことが負担のようです。寄付の額をあらかじめいくらでと決めるのはおかしいと思います。川越市などは各家庭に封筒を渡し、寄付金の額はそれぞれに任せているらしいのですが、ふじみ野市も改めていただきたいと思っています。

市長 社協は市の組織ではないのですが、市が補助金を出している団体なので、ご意見として伝えておきたいと思っています。確かに、寄附は厚意で行う浄財なので、在り方について考えなくてはいけないと思います。

町内会の会員の減少というのは、おっしゃられたように高齢の方もそうですし、子育て中の人も負担に感じる部分があるのかもしれない。

老人会、今はいきいきクラブといますが、こちらも加入者数が減ってき

ています。確かに60歳、65歳くらいの方はまだまだ現役だったり、元気だったりするので、加入した方が多いかもしれません。

しかし、町会もいきいきクラブも大事な自治組織なので、組織力を高めていきたいと考えています。ふじみ野市が目指す「元気健康の好循環」のまちとは、例えば仕事一筋だった人が退職後に生きがいを見いだせるようなまちづくりです。その根幹をなすものが町会です。災害時もそうですし、犯罪発生への抑制力にも大きな効果があります。

参加者 この地域は狭い道路が多いのですが、電信柱がけっこう邪魔になります。地中化とはできませんか。

市長 道路が狭いというのはあちらこちらで何う話です。このまちは霞ヶ丘団地、上野台団地が出来て、どんどん発展しました。農道の状態のまま、まちが造られてしまったため、道路幅を拡幅するなどの道路整備が追い付かなかったといえます。電線の地中化はひとつの解決策だと思いますが、市内全域で実施することは困難ですし、災害の際の復旧にはより時間がかかるといわれています。

そこでせめて、一定の区間に車のすれ違いに利用できる待避所が造れたら効果があるのではないかと考えています。一方通行にしたらいいのではないかとという提案もあるのですが、一方通行にすると通行車両のスピードが上がってしまい、かえって危険が増す場合があります。

この地域では、山口耳鼻咽喉科のあった道路の先の交差点をなんとかしてほしいというご意見をよく聞きます。子どもや高齢者を何とか事故から守りたいとは考えておりますので、検討はしていますが、なかなか実現できなくて申し訳ないと思っています。

参加者 歴史民俗資料館や旧大井村役場は、市の職員が維持管理をしているのでしょうか。

上福岡図書館や大井図書館、西公民館図書室を民間に委託すると聞きましたが、詳しく教えていただければと思います。

市長 資料館は市の職員が常駐して維持管理していますが、旧大井村役場は通常時は非公開なので、特別公開などを実施するときには職員がいるようにしています。

図書館は、9月の定例市議会で、上福岡図書館を指定管理者つまり民間事業者が運営していく形式に変えることが議決されました。図書館の運営を担う民間事業者なら、司書の有資格者や図書に関するノウハウを有しています。コストも削減できますし、開館時間の延長や休館日の削減などができるようになります。

図書館は2館ありますので、本来でしたら統合しなければいけないと思う

のですが、なかなかすぐに実施はできません。ですが、上福岡図書館を指定管理者にすることで、開館時間の延長や休館日の削減など利用者サービスの面は大井図書館も向上します。

来年10月からの実施に向けて現在、そういう取り組みを始めたところです。

参加者 今月末から来月にかけて市民文化祭が行われていますが、おおい会場、かみふくおか会場と2カ所で実施しています。1カ所で実施できないなら、お互いの会場を行き来するシャトルバスみたいなものを運行したらいかがでしょうか。

市長 まさにその通りだと思います。お互いの展示などを見ることができるので、シャトルバスの運行というアイデアはとてもいいと思います。

市はそれぞれの団体の意思是尊重しますが、一本化できるように話はしていきたいと思っています。

参加者 以前、武蔵野地区は道路を隔てて大井町となるエリアでした。現在も、学区は分かれています。当然のことですが、子どもたちの遊びの集団も分かれています。一緒には遊ばない訳です。私たち大人でもなじめないでいることもあります。子どもたちから同じ学校へ通うようにはできないでしょうか。

市長 かつての行政界が入り組んでいたエリアには大きな課題です。消防団も上福岡と大井の消火栓の水圧が違っていたために大変でした。

学区については当初指定校の緩和措置をしていました。来年、合併10年を迎えるので、学区の見直しをしたほうがいいのではという話を教育長にはしています。しかし、学区の見直しは大変なことで、すべての人が納得できるようには区切れない訳です。とはいえ、少なくとも課題を抱えている学区では見直しは必要と考えております。

参加者 あったかいまちふじみ野を目指して、と看板に書いてありますが、具体的にはどんなまちのことでしょうか。また、そのためにどのような施策を実施しているのでしょうか。

市長 かつてあった人間関係、ご近所づきあいが日本人のあったかさだったと思うのですが、現在はそういうものが希薄になってきています。

市役所でもいまだに「あっち」「こっち」と合併前の自治体を呼ぶ職員もいます。残念なことです。そんなとき、市民の方から「もう旧大井町、旧上福岡市と呼ぶことはやめましょう」と言われると、本当にうれしくなります。

市役所がいくら「あったかいまちをつくりましょう」と言ってもだめです。

地域や団体があつたかい活動をしてくれると、あつたかいまちになります。例えばですが、子どもの登下校を地域の方が見守ってくれる。そのことを子どもたちは分かっている、大人にありがとうと感謝する。そういうことの積み重ねがあつたかいまちを造ると思っています。

このまちに暮らす11万人が、一つの家族のように暮らせる、あつたかいまちにしたいと考えています。

参加者 ふじみ野市は借金がどれくらいありますか。

市長 合併特例債という有利な借り入れを使っている状況です。市債残高は265億円程度です。毎年返却をしながら新たな借り入れを行っています。最終的には320～330億円程度にはなると思いますが、特例債は国が7割を負担しますので、市の負担は3割ということになります。

参加者 その額は、この規模の自治体で適正な数字でしょうか。

市長 将来負担比率や実質公債費比率から見ても、負担は大きくありません。市では、毎年同じ税収が見込めるわけではありませんので、財政調整基金で調整を行っています。そのほかにも皆さんへのサービスが低下しないように公共施設整備基金や減債基金など取り崩しができる基金を用意しています。平成33年度からは交付税の上乗せ分もなくなってしまいますし、新たな課題も生じるかもしれませんので、将来に備えているわけです。それらも含めて考えると、債務は当然ありますが、持続性を確保できる自治体であるといえます。

参加者 市の財源確保のために、大企業の誘致とか商店街の復興とかは考えていますか。

市長 市の財源確保のために、企業の誘致は効果が高いと考えています。固定資産税と法人市民税が確保できますし、付加価値として雇用の拡大が図れます。市民の方の雇用が依頼できれば、財政的にプラスになります。企業誘致に農地を活用しようと農家の方たちとも話し合いを行っています。農業振興地域に指定されているので、簡単には転用できないのですが、課題解決に向けて取り組みを進めています。